

垂直磁気記録に係わった外国人たち

田邊信二

本題の「磁気記録に係わった外国人たち」に入る前に、少し旧磁気記録懇談会について書きます。

もともとは、PMRC 白浜の準備委員会として発足し、当事パナソニックの菅谷さんを中心に設立したもので、発足時のメンバーは紙中さんや亡くなられた端山さん、私などでした。白浜 PMRC が岩崎先生の「やっぱり仙台でやろう」の一言でなくなり、せっかく集まったのだから「関西で東京の悪口を言い合う会」として続けようと関西磁気記録懇談会が立ち上がりました。その後、菅谷さんがお亡くなりになり、存続の危機を迎えましたが、中村先生をお迎えし無事継続、今日を向えています。

私自身の垂直磁気記録との係わりは、東北大学理学部物理学科で磁気物性をやり、三菱電機に入社し3年目に当事の電気通信研究所岩崎研究室に研究生として派遣されました。その後米国ミネソタ大学のジュディ先生の下に留学しました。その間、有限要素法の磁場解析の垂直磁気記録への適用で岩崎先生と3件の連名論文を書かせていただき、また、軟磁性体の磁区構造の研究などに携わりました。東京インターマグのときは、三菱電機として業界で初めての CoCr 垂直磁気記録媒体と単磁極ヘッドを組み合わせた HDD を試作、実信号を再生する動的デモを行いました。

以下、トピックスとして垂直磁気記録に係わった外国人たちのエピソードを少し書いてみます。いろいろな分野を見回しても、垂直磁気記録ほど日本(仙台)が世界の中心となった分野は、ないですね。記述は、思いつくまま、順不同です。

[ジャック・ジュディ Jack Judy]

大きな体で、いつも磁気記録を熱く語られていました。息子さんの2人はさらに背が高く2m7cm、奥様のベティさんはいつも旦那のジャックを支える良妻賢母。ミネソタ大学で磁気記録研究所を率い、いつも忙しそうに走り回っていた姿が懐かしいです。

[ジム・モンソン Jim Monson]

典型的なアメリカの「タフガイ」。いまでも奥様と毎年フランスを旅行されているような。クレアモントのお宅は息子さんに売り、今はカリフォルニアの砂漠の別荘で悠々自適。数年前に日本に来られた際も自らレンタカーのハンドルを握り山陰を旅されていました。

[クラーク・ジョンソン Clark Jonson]

以前はVirtiMagの社長。数年前お話したときもミネソタでお元気でした。マシユーによると「相変わらずなぜかお金持ち」とか・・・趣味は鉄道で、自らの車両を持ち機関車につなげてアメリカ中を旅していました。車両の内装は寝室、キッチン、ダイニングつきの豪華車両でした。

[デニス・スペリオティス Denis Speriotis]

ギリシャ生まれのよくしゃべるおじさんの印象。彼が、関西に来たとき難波の南海ホテルに泊まるのでフロントに電話したそうです。すると「御堂筋線で、難波で降りて・・・」の説明を受け彼はさかんに「Number what?」と聴いたそうです。ちなみに「なんば」の番号は御堂筋線 M10 です。

[ロン・インデック Ron Indeck]

初めて仙台に来たときはジュディ先生のところの博士課程の学生さん。その後セントルイスのワシントン大学教授で IEEE Magnetics Society 会長も。以前セントルイスのお宅に伺ったときは、美人の奥様と 2 人の息子さん、大きな犬に迎えていただきました。

[ナン イェー Nan-Hung Yeh]

いまは、Seagate を引退し、悠々自適にたまに奥さんと 2 人世界中を旅しています。もともとカリフォルニアの Ampex からミネソタに移り、その後またカリフォルニアに戻り、サンフランシスコ空港の南にお住まいです。息子さんの Michael 君は Apple で iPod, iPhone の開発に携わり、いまは Google で活躍しています。

[ビル・ベーカー Bill Baker]

もともと材料力学/弾性論で有名なスタンフォードのティモシェンコ (Timoshenko) のもとで機械工学を学びロッキードで航空機的设计、モスクワ大学留学などの経歴の持ち主。磁気記録の後、スタンフォードの線形加速器センター (SLAC) で加速器的设计に携わり、現在もスタンフォード近くに在住。「よ

く、それだけいろいろな仕事をこなせますね」の問いに「いや、どれも 2 階の微分方程式だから」との答えが印象的。

[コック・ロダー]

オランダ、トウェンテ大学の教授。岩手の PMRC の折も学生を引き連れて来日。エクスカーションツアーはあいにくの豪雨。三陸海岸でバスを出た学生 3 人が時間になっても戻らず、彼の一言は「こんな豪雨の中『犠牲者』がたった 3 人ですんだのは幸運だ」と（もちろんその後 3 人は無事戻りましたが）（笑）

[マルティン・フォス Martin Vos]

もともとロダー先生の学生として岩崎研に在籍。その後ミネソタのジュディ先生の下で博士号を取り、3M に入社。磁気記録は離れたがいまもミネソタの 3M に在籍。口癖は「Anyway」うちの娘は小さい頃ミネソタで「エニィウェイのマルティン」と彼のことを呼んでいました。

[マシュー・デュガス Matthew Dugas]

マルティンと同時期に岩崎研に在籍。ミネソタに戻り磁気記録の会社 Advanced Research を創設。2 人の息子さんの父親だが、やんちゃぶりは変わらない。私がミネソタにいた頃の彼の愛車はコルベット。

[ビンセント・トービン Vincent Tobin]

もともとモンソン先生の学生さんで岩崎研に在籍。実家はサンディエゴで実家にはお父さんの趣味の（高そうな）クラシックカーが何台か。

[チャルディエロ・ジョバンニ Giovanni]

初期に岩崎研にオリベッティから来て在籍のイタリア人。日本で一番好きな食べ物は「お好み焼き」とか。さすがピザの国出身。

[デニス・ミー Denis Mee]

ご存知「Magnetic Recording Volume I」の著者。IBM に在籍し、仙台にもミネソタにもよく訪れていた。小柄で温和な紳士。

[スティーブ・デッカー Steve Decker]

初期に岩崎研へ来たイエーさんの上司。もともと IBM で MR ヘッドをやっており、MR ヘッドの垂直記録への応用に熱心だった。三菱電機よりオーディオ用の MR ヘッドを持ち込み山口大の山本さんとともに実験。山本さん曰く、スティーブ・デ

ッカーならぬ「タイド（態度）・デッカー」（笑）その後ポラロイドに転職。

以上、思いつくままに思い出に残る垂直記録に係わった外国人の皆さんの紹介、近況を描いてみました。



【略歴】

田邊 信二（たなべ しんじ）（工学博士）

1980年4月 東北大学理学部物理学科卒業、同年、三菱電機株式会社入社
垂直磁気記録を中心に磁気記録用ヘッドの開発、軟磁性薄膜の磁区挙動の研究
に従事

1982年4月～1983年3月 東北大学電気通信研究所 研究生

1989年9月～1990年9月 ミネソタ大学研究員

1996年より EMC、携帯電話、通信用インフラ機器など高周波・高速伝送機器の開
発と国際標準化に従事

2010年より事業のグローバル化、グローバル人材育成に従事、現在に至る

2017年より大阪工業大学情報工学科非常勤講師兼務

IEEE Senior Member (関西支部理事、TPC Chair)、電子情報通信学会会員、日本磁気学会会員として学会活動

携帯電話マイクロ波の人体影響に関する IEC TC106 日本代表エキスパート、IEEE 標準化委員会(SCC34) 委員、IEEE SA (Standard Association) Corporate Advisory Group Member として国際標準に貢献

著書：アルテ 21 「電磁気」(オーム社出版) (共著)、日本磁気学会「磁気便覧」(丸善) (共著)

訳書：高速信号ボードの設計 (High-Speed Signal Propagation) (丸善) (共訳)